



杉退教・さくら会 たより

杉並区退職教職員の会（さくら会）

杉並支部HP <http://tokyousosuginami.web.fc2.com>

〒167-0031 杉並区本天沼 1-2-19 都教組杉並支部内 Tel 3399-8719 Fax 3399-3855

2021年度が始まりました

吾亦紅の咲く庭 本天沼2丁目

木々の新緑がかがやく季節です。街のあちこちで色とりどりの花が競うように咲いています。コロナにめげず変化する、自然の営みに励まされます。

さて、コロナ禍は新たな課題を私たちに投げかけています。

感染の収束が見通せず、ウイルスは姿を変え、感染力を強めながら拡大しています。

緊急事態宣言が繰り返され、国民のいのちと暮らしが大変な状況になっています。

驚くことは、こうした状況の中でもオリンピック・パラリンピックを実施しようとしていることです。病院の提供、看護師の派遣要請。児童・生徒の競技観戦。耳を疑いたくなります。

さらに国会では、どさくさ紛れのよう、改憲のための国民投票法改定案

コロナに負けず元気に過ごしましょう

杉退教会長 元八成小学校 金丸 和彦

が可決しました。多くの国民の意向を無視し、なぜ改憲を急ぐ必要があるのでしょうか。いま必要なのは、コロナ対策を含め、憲法にもとづいて政治が行われているのかを点検することであり、政策に憲法を生かすことではないでしょうか。

年度替わりにあたって、皆さんからたくさんのおたよりや作品を送っていただきました。「さくらの便り」にまとめました。「都退教45周年記念誌」と共に同封いたしました。

皆さんの頑張りに学びながら、杉退教の心をひとつにして、この危機を乗り越えていきたいと思えます。

午後三時感染者数出されれば

俄学者となりて物言う

国民に外出自粛押しつけて

夜の銀座に興じる墮落

こんなこと許せません・・・

遺骨眠る土砂で辺野古新基地埋め立て

辺野古新基地建設計画から15年、土砂投入開始から2年4か月。総工費2400億円の予定が3500億円、昨年には900億円へと再再検討。埋め立て一部工事の契約金額は259億円から416億円に。2014年完成予定は大幅にずれ、今や完成見込みもたたないくらいだ。ひとえに沖縄県民の粘り強い闘いの成果だ。

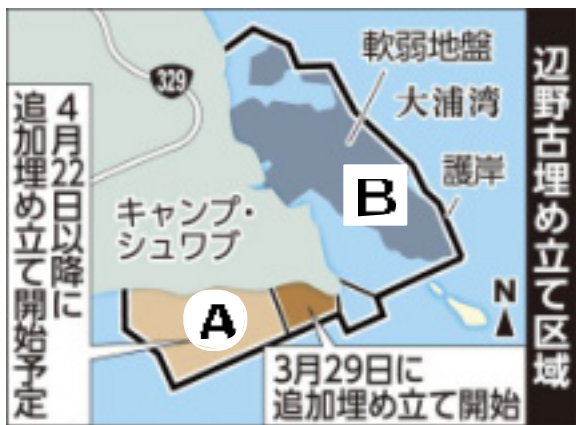
しかし政府は、今年度も土砂投入費などとして214億9400万円を計上した。そして沖縄戦の遺骨が眠る糸満市の土砂を採掘しようとしている。遺骨が返ることを待ち望む遺族の方々、ボランティアで遺骨収集を続けている方々の怒りと悲しみはいかばかりか。糸満市の市長は「これは政治的な立場を超える問題…人道的に許されない。」と語った。

まさに血も涙もない専制的な行いといえる。事態解決のためには、政府を変えることが先決だ。そのための選挙が間近に控えている。

骨の砂 サンゴの海で泣いている (雪うさぎ)



杉並平和新聞 4月号から



←現在も遺骨収集が行われている糸満市

→土砂収集予定地に「立入禁止！」



田村直二さんに聞く
シベリア抑留体験と
今思うこと



先日、元都教組杉並支部委員長の黒澤裕子さんから、左のような表題の冊子をいただきました。お住いの調布市深大寺の「深大寺9条の会」が96歳の田村さんの講演を聞き、その要旨を黒澤さんが中心になり編集したものです。

敗戦後のこの頃は、私はまだ子どもでしたが、田村さんのお

話しの中の、軍国主義の中でも流行った「戯言」や「替え歌」は今でも覚えているし歌うこともできます。新卒の荒川の小学校には、シベリヤ帰りの一回り上の先輩教師もいました。冊子のほんの一部ですが、黒澤さんの了解を得たので紹介させていただきます。 たかぎ・たかし

=====

- 1923年（大12年）墨田区で生まれる。小学校の頃は新宿区そして杉並区高円寺に転居。14歳で国鉄に。1944年（昭19年）20歳で軍隊へ。兵隊に行くとき、母は何も言わず、高円寺の駅の柱の陰で見ている。中国の済南で関東軍に配属。翌年敗戦。帰国途中、朝鮮の元山で捕虜となった。
- 満州からの引き上げで故国をめざして歩いている子どもたちが「兵隊さん。僕たちを連れて行って」とすがってくる。私たちは申し訳なくて・・・涙を流しながら歩いた。持っている洋服を分けてやることくらいしかできなかった。
- 11月、元山から船で渡り、そこから歩いてシベリアへ。厳寒の地…夏服しか持っていない…馬小屋だったところが宿舎…食料は300グラムの黒パン。最初の冬で体の弱いものは死んでいった。母に会いたい一念でがんばった。
- 労働は木の伐採。1.5メートルもある木を3人一組で切る。30メートルは間隔をとって作業するきまりがあったがそれでも事故はおきた。二人はのこぎり。もう一人は枝を落とす。落とされた枝を燃やしてへびなど（ハリネズミ・ネズミ）を焼いて食べた。凍傷になると働かなくても食べ物がもらえた。指の一本や二本無くなっても生きています方が大事……と治さなかった。
- 1948年（昭23年）4年10ヶ月の軍隊生活を終え、ナホトカから舞鶴への引き揚げ船で帰国した。列車で東京へ…母は品川駅まで迎えにきてくれた。会って嬉しかったが涙は出なかった。本当に嬉しいときは涙も出ないものだ。

*次ページへ続く

● 軍隊というところは・・・

・連隊の中では「上官侮辱罪」があった。厳しくすればするほど反発も出てくる。酒が入ると大喧嘩となる。締め付ければ締め付けるほど他に抜け道をさがす。「じゃれ歌」や「じゃれ言」も出てくる。

◆ ♪お国のためといいながら…人のいやがる軍隊に…

…志願で出てくるばかもいる…かわいいスーちゃんと泣き別れ

◆ ♪いやじゃありませんか軍隊は…カネの茶碗にカネの箸（竹の箸）…

…仏様でもあるまいに…一膳めしとは情けなや…ほんとにほんとにご苦労ね…

◆ 「愛国行進曲」の替え歌 ♪見よ東海の空明けて…旭日高く輝けば……………

♪見よ東條の禿げ頭…ハエがとまればツルツと滑る…滑って止ってまた滑る…

…止って滑ってまたとまる…おおテカテカの禿頭…そびゆる富士も眩しがり…

…あの禿どけろと口惜し泣き…雲にかくれて大むくれ……………

◆ ♪君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて…

…それに つけても 金の 欲しさよ

◆ 朕うっかり屁をこいた…なんじ臣民臭かろう…お国のためだがまんしろ

◆ 今日の授業はこれでおしまいです…御名御璽 （←処罰を受けた人も）

こういう歌が日常茶飯事だった。押しつけられることへの鬱憤のはけ口。

今はこういうじゃれ歌が少ない。言論の自由があるからではないか……………

とされている。

——— 田村 直二さん談 ———



① 2020年度会計報告

収 入	前年度からの繰り越し	30,088
	会費・カンパ	63,892
	合計 A	93,981
支 出	郵送代	11,740
	印刷費	19,521
	消耗品・用品	13,967
	上部分担金	10,000
	資料代（パンフ）	13,000
	雑費・交通費補助	5,120
	合計 B	73,500
	A-B 次年度へ繰越	20,481

② 同年度切手会計報告

収 入	前年度繰り越し	20,722
	切手会費等	41,236
	合計 A	61,958
支 出	郵送切手使用 B	24,775
	A-B 次年度へ繰越	37,183
* 会計監査はコロナ禍の影響で、まだ実施できていません。		
5月中に行い、7月のたよりに掲載いたします。		
ご了承ください。 係		

※「さくら会・紙上ギャラリー」作品未着があるため7月送付となります。

すでに提出くださった方には申し訳ございません。

(係)

挑戦『源氏物語』・宇治十帖を読む①

池田茂都枝（元大宮中学校）

新年の挨拶に兄宅に伺った時だった。「ソウカク」って賢治に関係しているのか、それとも源氏物語に関係しているのか」と聞かれた。手元には「総角」と書いた紙がある。「賢治にそんな作品はないし、源氏物語の巻が音読みすることはないね」と答えながらスマホで「総角」を検索すると「あげまき」とあり、源氏物語の宇治十帖の巻の一つであることがわかった。そして、兄嫁が差し出した菓子器には一口大のおせんべい。数個採りあげてみると、袋の表に「総角」「匂宮」「橋姫」「浮舟」等とあり、裏にはそれぞれ歌が載っている。製品元は宇治のお菓子屋だった。

「あらあ、これは源氏物語宇治十帖のおせんべいだわ」と、「総角」を採り上げて噛む。軽くておいしい。「東京で売っているのかしら」と興味津々の私。教え子からのお歳暮だとの返事。帰宅してインターネットで調べてみるが東京の販売店はわからない。と、兄からおっつけ連絡が入り、ナント!! 国分寺のマルイに出店しているという。翌日買い求めて、『新潮古典文学アルバム8源氏物語』（新潮社）を携えてまたまた兄宅へ。そして兄嫁と源氏物語を読んでみるということにあいになった。もちろん桐壺からではなくて、「総角」絡みで宇治十帖から始めることにした。源氏物語は全く初めてという兄嫁が現代語訳の朗読担当。私は57年ぶりに岩波古典大系の原文に挑戦である。

まずは現代語訳本の選択である。既読の田辺聖子、村山リウ、瀬戸内寂聴、未読だった角田光代を確認し、字の大きい瀬戸内寂聴訳の単行本に決定。2月から開始、月3回で一回に一卷、宇治十帖は五月末、五十四帖の終了を来年7月と設定。兄嫁も私も後期高齢者、年数をかけるわけにはいかないのである。そして終了時には宇治十帖の旅をお楽しみとして月2000円ずつの貯金と決めた。

さて、4月5日現在、「匂宮」「紅梅」「竹河」「橋姫」「椎本」「総角」「早蕨」が終わった。兄嫁は3時間の朗読をやり遂げるし、私は、古語辞典を傍らに、頭注と補注と付図を参考にひたすら予習する。「総角」には三日余りを要



卷四十七「総角」あげまき



総角結び
あげまきむすび

した。午前9時から夕方5時までの格闘である。源氏物語を卒論にした友人はこの長き物語を原文で読んだのだと尊敬し直したり、「紅梅」の按察大納言、「竹河」「早蕨」の夕霧の大殿、「椎本」の八宮等、子の行く末を案じ、子の幸せのために労する父親の姿に驚かされたりしている。

(※宇治への道筋を掲載しました。来年はこの道を歩く予定なのです!!)

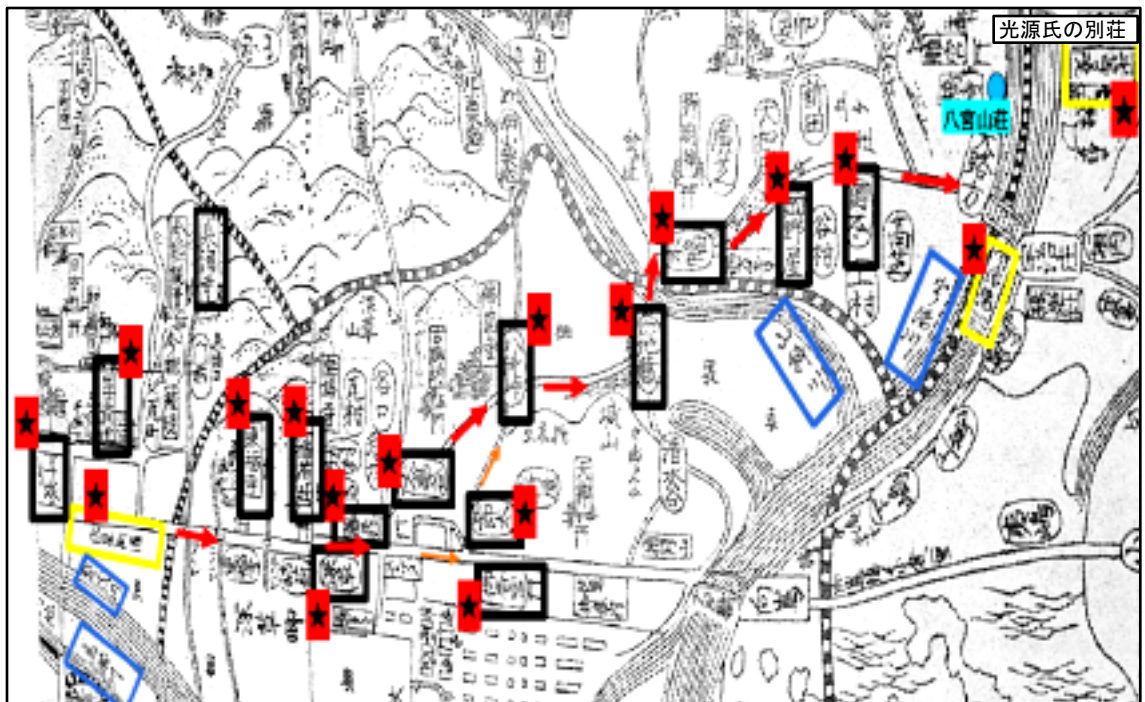


宇治川の流れ



「総角」古跡の碑

京から宇治への路…源氏物語の登場人も通った道…途中 東福寺 六地蔵がある



平安時代の京都御所、即ち今日の千本通丸太町辺から深草まで、大体二十数町と見れば、宇治までは約二里半（十キロ）弱程度である。馬を緩く走らせたり、歩かせたりで、平均一里に約十七分程度を要するとすれば、約四十分から一時間までの間に、宇治に着く。もし徒歩で、一里に四十分程度を要しても、宇治までは、約百分、すなわち一時間四十分を要し、二時間はかからない